

授 業 科 目 名	安 全 管 理	単 位 認 定 者	會 田 秀 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習形式
科 目 の 目 的	安全な医療は、どのようにすれば提供できるのかを理解し、自身の考えをまとめることができる。
学 習 到 達 目 標	「人は誰でも間違える」ことが理解できる。 組織、システムに潜んでいる危険を理解し予防策を考えることができる。 事故被害者の思い、事故当事者の思いを理解できる。
関 連 科 目	解剖学、生理学、心理学、医療民俗学、法学、経済学、生命倫理
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	以下の割合で成績評定を行う。 試験（最終日に実施）80% レポート（毎回の授業で実施）20%
準 備 学 習 の 内 容	米国と日本の医療制度の比較。人間が間違いを犯すのはなぜかを生理学、心理学を参考に考える。 マスコミ等の報道～社会が医療に期待することや医療の限界を知る。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	関連法規 医療安全の変遷 事故報告制度	医療法、理学療法士法、刑事・民事・行政法等医療に関連した法規について説明。 米国と日本の医療安全対策の比較。 Just Cultureの話（正義は裁けるか？）	刑事責任・民事責任・行政処分 インフォームド・コンセント チーム医療
2	チーム医療と専門職	チーム医療とは。 ディスカッション。 チーム医療の目的、現場の状況の話。 チームステップス演習。	
3	患者と医療者のコミュニケーション。 医療者間のコミュニケーション	患者が医療者の言葉を理解できているか。 医療用語の患者理解。 説明の仕方。	
4	ヒューマンエラー	人間工学の話。 航空界と医療界の比較。	
5	事件事例の分析	根本原因分析手法を用いた演習	
6	裁判事例	模擬裁判演習 被害者家族の声 生命倫理の考え方	
7	感染防止対策	手洗い演習 感染が発生した場合の処置 患者・家族への説明の仕方	
8	試験		

教 科 書	購入するものはない
参 考 書	人は誰でも間違える；L. コーン他 米国医療の質委員会/医学研究所著 医学ジャーナリスト協会訳；日本評論社 安全学；村上陽一郎；青土社

授 業 科 目 名	理 学 療 法 セ ミ ナ ー	単 位 認 定 者	目 黒	力
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後	期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必	修

指 導 方 法	グループワークと講義を中心に行う。
科 目 の 目 的	専門基礎科目，専門科目において習得した既存知識を総復習し，臨床実践に向けた学習準備状態の確立を目指す。
学 習 到 達 目 標	グループワークなどを通して，専門基礎科目・専門科目で習得した基礎知識を広く理解することができる。さらには臨床実践に対応できるように，基礎知識を応用的に活用することができる。
関 連 科 目	理学療法セミナー、各専門基礎科目，各専門科目
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況 10%，グループワーク活動状況 70%，記述試験 20%
準 備 学 習 の 内 容	四年間の集大成としてテキストを熟読すること

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	理学療法特論 1	解剖生理運動学	
2	理学療法特論 2		
3	理学療法特論 3	基礎・臨床医学	
4	理学療法特論 4		
5	理学療法特論 5	基礎理学療法学	
6	理学療法特論 6		
7	理学療法特論 7	理学療法評価学	
8	理学療法特論 8	理学療法治療学	
9	グループワーク	解剖生理運動学	
10	グループワーク	基礎・臨床医学	
11	グループワーク	基礎理学療法学	
12	グループワーク		
13	グループワーク	理学療法評価学	
14	グループワーク	理学療法治療学	
15	まとめ		

教 科 書	理学療法士・作業療法士 間違いだらけの国家試験対策勉強術
参 考 書	

授 業 科 目 名	卒 業 研 究	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演習
科 目 の 目 的	本科目は生涯に亘り、問題解決能力の向上を目指す意志と態度を養うために、理学療法と保健科学関連学問領域に及ぶ課題の設定、研究立案、論文作成等一連の取り組みを通して、学生自ら主体的に探究し、併せて理学療法研究に資する高い読解力を身につけさせることを目的としている。専門科目担当教員の指導の下、研究テーマを定める。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、研究テーマの選択、研究方法の選択、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・処理・考察、研究発表を経て、論文作成を行う。
学 習 到 達 目 標	各指導教員の下、自分の選定したテーマに従い研究計画を立案・実践し、その成果について論文にする。
関 連 科 目	それまで学習した科目のすべてと関連する。
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習過程を鑑み、論文により評価する（100％）。
準 備 学 習 の 内 容	各自、研究課題を遂行するにあたり、必要な知識を整理し、文献等の収集、実験機器、スケジュールを見積もること、研究遂行ノートを準備すること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
	卒業研究ゼミナールにより指導	各指導教員の研究室に配属し、ゼミ単位で行動する。	

教 科 書	特に選定しない
参 考 書	それまで学習で使用した教科書を参考にする。

授 業 科 目 名	総 合 臨 床 実 習	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	7 単 位 (8 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習施設に於いて，臨床実習指導者の指導・監督の下実習を行う．
科 目 の 目 的	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設の臨床現場で実習する。特に、神経疾患を中心に、理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下、実地で習得する。
学 習 到 達 目 標	総合臨床実習は、1～3年次で修得した知識と技術の総合的な修練の場である。臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価，理学療法診断，治療指針，目標の設定，治療計画・プログラムの設定，それに基づく一貫した治療（の一部）を実施し，さらには経過を観察し，適否・有効性について考察できるようになることを目標とする。また，この実習では，実際の医療チームの一員としてその役割や責務を体験し，理解することも目的の一つである。
関 連 科 目	すべての科目
成績評価方法・基準	出欠席，総合臨床実習指導報告書，レポート等課題および学内報告会などを総合して判断する。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	コースリインテ-ション	本科目の目的，学習到達度，成績評価方法 実習スケジュール 実習方法などについて 臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ	
2	実習（8週間）	各実習地における実習	
3	実習訪問	各実習地へ専任教員が訪問し，実習の経過・進捗の確認，その他臨床実習指導者との打ち合わせなど	
4	臨床実習報告会 （症例発表会，なら びに審査会）	個々の学生が，臨床実習で経験した症例の中から，1例を選択して発表する。発表内容，提出課題などを審査する。	

教 科 書	
参 考 書	別途案内

授業科目名	総合臨床実習	単位認定者	城下貴司
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	7単位(8週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習施設に於いて、臨床実習指導者の指導・監督の下実習を行う。
科目の目的	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設の臨床現場で実習する。特に、整形外科疾患等を中心にして、理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床指導者の下、実地で習得する。
学習到達目標	総合臨床実習は、1～3年次で修得した知識と技術の総合的な修練の場である。臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価、理学療法診断、治療指針、目標の設定、治療計画・プログラムの設定、それに基づく一貫した治療(の一部)を実施し、さらには経過を観察し、適否・有効性について考察できるようになることを目標とする。また、この実習では、実際の医療チームの一員としてその役割や責務を体験し、理解することも目的の一つである。
関連科目	すべての科目
成績評価方法・基準	出欠席、総合臨床実習指導報告書、レポート等課題および学内報告会などを総合して判断する。
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション	本科目の目的、学習到達度、成績評価方法 実習スケジュール 実習方法などについて 臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ	
2	実習(8週間)	各実習地における実習	
3	実習訪問	各実習地へ専任教員が訪問し、実習の経過・進捗の確認、その他臨床実習指導者との打ち合わせなど	
4	臨床実習報告会 (症例発表会、ならびに審査会)	個々の学生が、臨床実習で経験した症例の中から、1例を選択して発表する。発表内容、提出課題などを審査する。	

教科書	
参考書	別途案内